

＊ ニュースレター ＊

2001年12月25日号より



[第13回日本歯科審美学会学術大会のご案内](#)

東京医科歯科大学大学院  
う蝕制御学分野大会長 田上順次



[日本歯科審美学会セミナー案内](#)

セミナー委員会 委員長 佐藤 孝



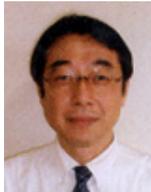
[歯科衛生士教育に対する提言](#)

日本歯科審美学会 常任理事 佐藤二三江



[ASDA創立25周年大会に出席して](#)

日本歯科審美学会 理事 坂本洋介



[美しさと矯正治療](#)

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
咬合制御学分野 森田修一



[コンポジットレジン修復における光照射器の選択](#)

日本歯科大学新潟歯学部  
歯科保存学第2講座 新海航一

| [Back](#) |



2001年12月25日号より



**第13回日本歯科審美学会学術大会のご案内**

東京医科歯科大学大学院

う蝕制御学分野大会長 田上順次

第13回日本審美学会学術大会を担当させていただくことになりました。本大会は、平成14年11月16日（土）、17日（日）に、東京神田菱一ツ橋の学術総合センターで開催の予定で準備を進めております。

メインテーマは、「わざと叡智の邂逅：The Art and Science of Esthetic Dentistry」で、科学的根拠に基いた審美歯科治療について深く掘り下げて参加者の・皆様と考えてみたいと思います。

私どもの教室は、創設者である総山孝雄名誉教授以来、接着性コンポジットレジンの基礎的・臨床的研究を続けてまいりました。接着性コンポジットレジンの進歩には目を見張るものがあり、最小限の侵襲（minimum intervention）で審美的な修復が可能であるため、審美歯科領域においてもcosmetic bonding techniqueとして注目されております。また、12月より日本でも、ホームブリーチング用の材料が販売されることになり、2003年は日本の審美歯科界が大きく変わる年と思います。会員各位におかれましては奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、2003年4月19～21日に東京で開催されます国際シンポジウム：第1回国際接着歯学会（日本歯科審美学会後援）の大会長も務めさせていただいており、こちらも教室を挙げて準備を進めております。本大会のメインテーマは、Harmony of Esthetic & Minimum Interventionで、メタルフリー修復を初め、ブリーチングを含めた審美歯科に関する演題も国内外より多く選択されており、本会長の皆様にとって大変興味ある内容であると思います。併せてご参加くださいますようお願い申し上げます。

---

| [Back](#) |



2001年12月25日号より



**日本歯科審美学会セミナー案内**

セミナー委員会 委員長 佐藤 孝

お陰様で本年7月よりスタートした本学会主催のセミナーは、東京・大阪と、それぞれ250名・270名の多数の参加を頂き、その関心の高さが伺えました。

次回は2002年3月21日に、シンポジウム (I) として「21世紀の審美歯科を展望する」と題し、各分野よりご発言頂く予定にしております。

特別講演には聖路加国際病院理事長であり、生活習慣病やホスピス、新老人の生き方など常に新しい在り方を提唱され、ご活躍中の日野原重明先生にご講演頂けることとなりました。

価値観が多様化するこの時代の中で、今まさに注目を浴びている審美歯科ですが、その会員の皆様に対し、少しでも新しい情報の提供を目的として開催されたこの企画です。

これからの歯科医療のあり方を真剣に考えていらっしゃる皆様にとって、この一連のセミナーおよびシンポジウムが価値あるものとなり、明日からの臨床に役立ち、益々の発展へつながることを願い、ご案内申し上げます。





2001年12月25日号より



### 歯科衛生士教育に対する提言

日本歯科審美学会 常任理事 佐藤二三江

去る2001年1月19日の朝日新聞朝刊で「歯科衛生士教育の充実が必要だ」という社説を読んだとき、まさに「わが意を得たり」と、こころの底からの感動を覚えました。

いま、社会は大きく変化しています。それにともない、「医療のあり方」も当然変わっています。

例えば、臨床の現場では、歯科医師の技術だけに依存していた時代から、組織力を活かす時代となりました。つまり、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士等が、同じ土俵に立って、こころを一つにして行う医療—「チーム医療」—が、当たり前になっております。

また、患者さんは技術のサービスだけではなく、「こころのケア」を求めています。

そんな社会のニーズにこたえるためにも、歯科衛生士は、チームの一員であることをまず自覚し、従来の業務である歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導という基礎知識の上に、人への思いやり、いたわり、やさしさ、そして美しいものを「美しく」感じるこころ、言い換えれば「人間性」を高めるために、日々研鑽すべきと思います。

技術とともに人間性を育む教育をするためには、「ゆとり」ある教育体制が必要であることを社説は訴えているのだと思います。

このことは、単に歯科衛生士の問題だけではなく、歯科医療全体のレベルアップに発展することは歴然とした事実でしょう。

歯科衛生士自身が、資質向上に努めることはもとより、関係諸先生方の一層のご指導とご理解、ご協力を切にお願いするものであります。

なお、「審美歯科」を語るには、女性がもつ、本来の美への感性が重要な役割を果たせるものと信じてやまないこの頃でもあります。



2001年12月25日号より

**ASDA創立25周年大会に出席して**  
日本歯科審美学会 理事 坂本洋介

平成13年10月25日から3日間、第25回米国歯科審美学会記念大会（American Society for Dental Aesthetics）がニューヨークヒルトン&タワーにて、参加者全員がオープニングにゴッド・プレス・ア

メリカのアカペラを厳粛な気持で耳にしながら学会が開催された。

9月11日のテロ事件に屈することなく参加者は予定を下回ったものの盛大に行われ、日本からは副会長 松尾 通先生を団長に20名が参加し、ポスター発表を行うなど学会を側面から支えることが出来た。来年4月20日に来日する会長Dr.Irwin Smigelの講演はアンチェインジングを意識した歯科治療に関してであり口腔周囲筋の解剖とリップサポートの重要性を多くの症例から述べていた。その他、口蓋部に埋入したインプラントを総義歯に応用する方法など、斬新な講演が目につき、またワークショップも9コース開催され充実したプログラムであった。

さらに我々は昼休みを利用したハンズオンセミナー（Dentsply主催）で新しいマテリアル（Esthex）を体験できるなど有意義な3日間であった。

今回の学会に出席して感じたことは人と人が暖か味を持って接していたこと。つまりあのテロ事件（向こうはナイン、イレブンと呼んでいた）をきっかけに今こそ心の結び付きが重要であることを全員が認識していたからであろう。

また我々が学会の合間にWTC近くのバッテリーパークまで足を向け惨劇の中心地—グランド・ゼロに手を合わせたことを会長が知り心より喜んでくれた。来年のASDAはラスベガスにて開催される。またASDAの指導医（Mentor）として松尾先生、寺川先生、そして小生が今回から登録された事を報告する。参加希望の先生方は問い合わせ願いたい。





2001年12月25日号より



### 美しさと矯正治療

新潟大学大学院医歯学総合研究科

咬合制御学分野 森田修一

歯科の領域で我々が影響を及ぼすことのできる“美しさ”とは、歯の美しさ、歯肉の美しさであり、さらには歯列の美しさ、口もとの美しさまで含まれるであろう。矯正治療では、歯を動かすことにより、歯列の形を変え、口もとの形をも変えてしまうが、本来、矯正治療そのものが元に復くする、あるいはそれに近づけることを目的としたものではなく、より良い状態を作りだそうとする行為がほとんどである。そこでより良い状態を作りだすための“美しさ”に対する概念が必要となる。その美とは、与五沢が述べているように、顔面を含めた口腔周囲の硬組織および軟組織の機能的調和にあり、機能的に調和のとれた状態を“基本的な美”と呼ぶことができよう。しかし、個人により顔のタイプは異なっているので、それぞれに調和のとれた状態が存在し、美しい形が必ずしも一つのタイプに限られるわけではない。その例として上顎前突症例（図1：術前、図2：術後）と下顎前突症例（図3：術前、図4：術後）を呈示する。最後に与五沢が述べているように、矯正治療は美しくなるためだけにおこなわれるものではないが、美しくなるためにおこなわれるものであり、花田が述べているように、「美しさ」を主観的にとらえ、しかも自然に与えられた顔貌に、より美しさを加えようとする矯正治療が、長く維持されるような内面的な美しさに加えて顎口腔系における機能的な美しさをも与えることができるようでありたい。

与五沢文夫：エッジワイズシステム、クインテッセンス出版、

2001／花田晃治：美しさと矯正治療、口腔保健協会、1997。

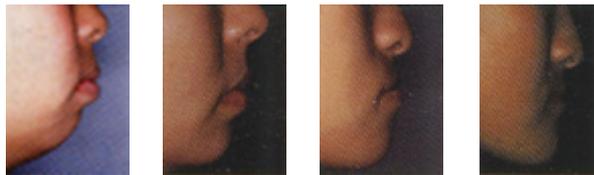


図1：術前 図2：術後 図3：術前 図4：術後



2001年12月25日号より

**コンポジットレジン修復における光照射器の選択**

日本歯科大学新潟歯学部

歯科保存学第2講座 新海航一

光重合型コンポジットレジンが臨床応用されてからかなりの年月を経ている。コンポジットレジン修復では、宿命的なレジンの重合収縮により、窩壁とレジンとの間に間隙（コントラクションギャップ）が生じ易い。特に光重合型レジンでは重合収縮の方向性から窩底部においてギャップが発生する傾向がある。また十分なレジンの重合度を得るには、ある程度の長い照射時間が必要である。積層充填法が必要な深い窩洞では、光照射にかなり時間を費やす。以上のような問題点を克服するために、さまざまな視点から改善が試みられてきた。最近では、光照射器にフォーカスが向けられ、これまで光源として主に用いられてきたハロゲンランプ以外にも、プラズマアークランプ、キセノンランプ、青色発光ダイオード（ブルーLED）などを使用した光照射器が市販されている。

プラズマアークランプやキセノンランプは高出力の光量でレジン在短时间内で重合できる利点をもつ。しかしながら、このような高出力照射によるレジンの重合方法は低出力で重合させる方法に比べて、窩底部におけるコントラクションギャップが生じやすいという研究報告が多い。青色発光ダイオードは電力消費量が少ないために、コンパクトなコードレスタイプで長時間の使用が可能となり、ランプ寿命も半永久的であるという。また青色発光ダイオードは、ハロゲンランプに比べ重合に関係ない余分な波長がほとんど出ないために発熱が非常に少なく、照射熱による歯髄へのダメージがないといわれているが、出力が弱いために重合度の低下が懸念される。

このようにいずれの光源も一長一短があるが、照射モードの工夫、すなわち、2ステップ照射モード、漸増出力照射モード、あるいはパルス照射モードによりレジンの重合ストレスを軽減し、窩壁適合性を向上させることが最近の研究で明らかとなった。したがって、これらの照射モードを採用している光照射器が、現時点で推奨されるものと思われる。